平成２８年１０ 月　１ 日

平成２８年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。
こうした考えから，平成２８年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。
また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成28年4月19日(火)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）
中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第２学年	国語　２０９人	社会　２０９人	数学　２０９人
	理科　２０９人	英語　２０９人	

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

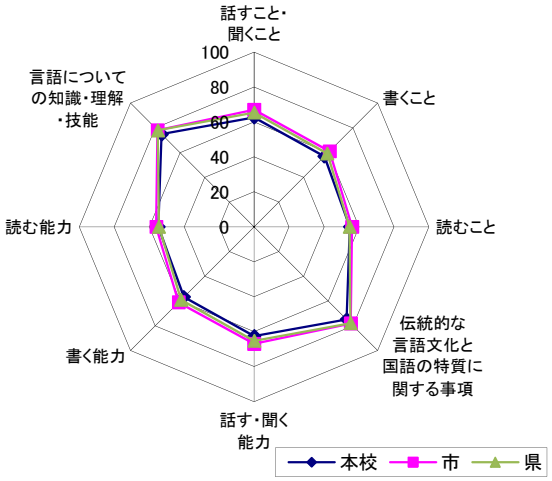
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	62.5	67.0	65.3
	書くこと	56.8	61.1	59.2
	読むこと	54.8	56.0	54.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.9	78.2	78.0
観点	話す･聞く能力	62.5	67.0	65.3
	書く能力	56.8	61.1	59.2
	読む能力	54.8	56.0	54.5
	言語についての知識･理解･技能	74.9	78.2	78.0



★指導の工夫と改善

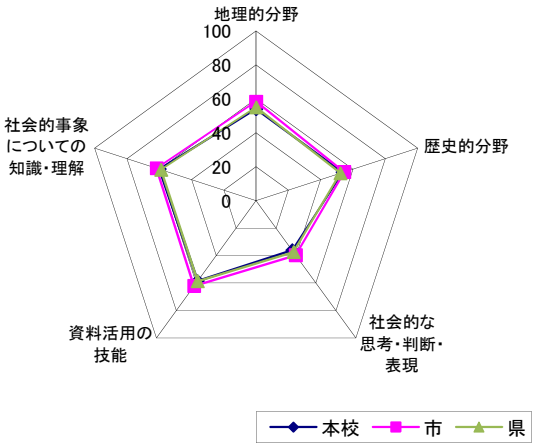
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「司会者として話し合いの進め方を工夫する」問題では正答率が83．7%であった。 ●「自分の考えとの共通点や相違点を整理して聞く」問題の正答率は34．0%であった。自分の考えを持ち、相手の話を整理して聞き取ることが課題と考えられる。	授業の中に友達の発言の意図をとらえ、確認させる活動を取り入れる。また、友達の発言に対して、理由を聞き取ったり、自分で発言する際には根拠を述べたりする活動を取り入れる。 聞き取りテストを今後も継続し実施していく。 グループでの話し合い活動を通して、わかりやすく伝える力や司会者として話をまとめる力をつける。
書くこと	○「目的に応じて書き加えるべき文を選択する」問題の正答率は71．3%で県の正答率を0．8ポイント上回った。 ●記述式の問題の正答率がいずれも40%以下であり、書くことへの抵抗が強い。 ●「文書の書き方の工夫について記述する」問題の正答率は7．2%であった。	授業の中で自分の考えや、感想、理由などを書く活動を増やし、書くことに慣れさせる。 文学的文章や説明文の読解の授業において、文章の書き方の工夫や特徴に着目させ、表現活動に生かすようにさせる。 国語以外の教科においても言語活動を取り入れた授業を展開してもらう。
読むこと	○「描写を踏まえて、登場人物の心情を捉える」問題の正答率は83．3%で県の正答率を1．3ポイント上回った。 ●説明文の「要旨を記述する」問題の正答率は19．6%で県との比較では5．9ポイントも低い。 ●「読むこと」の問題の正答率はおおむね良好だが、「表現の特徴」を捉える問題の正答率が低い。	説明文の要旨のまとめ方を授業で扱い、要点をまとめ記述させる。 小テストや定期テストの読解問題において、解答を記述させる問題を多く出題し、記述問題に慣れさせたい。 文学的文章の読み取りにおいて、内容理解だけでなく、表現上の特徴にも目を向けさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「漢字の読み」については県や市との比較では概ね良好である。 ●「漢字の書き」については県や市との比較で10ポイント以上低い漢字もあり、本校の課題といえる。 ●「歴史的仮名遣い」についての問題の正答率は76．6%で県との比較で8．5ポイント低い。	漢字テストの継続的な実施と、繰り返しの指導を続ける。 文章表現活動において、漢字表記を心がけさせ実践的な漢字能力の向上を図る。 読むことの授業や、古文の授業における繰り返し音読を今後も継続して実践し、「漢字の読み」や「歴史的仮名遣い」の技能を高める。

宇都宮市立若松原中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	54.0	58.4	55.0
	歴史的分野	53.6	54.6	52.2
	社会的な思考・判断・表現	36.2	39.8	37.5
	資料活用の技能	58.6	62.3	58.7
	社会的事象についての知識・理解	59.9	61.7	59.0



★指導の工夫と改善

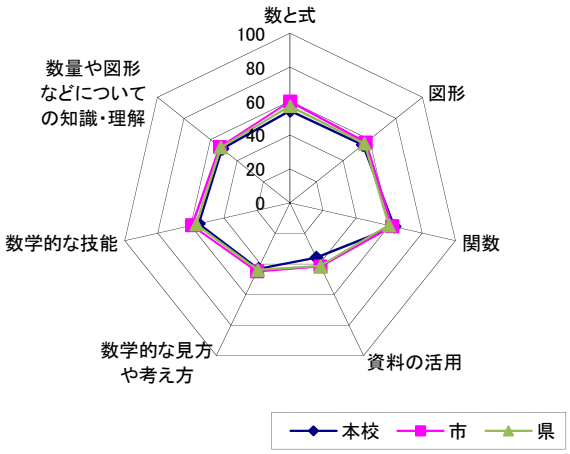
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○方位を正しく読み取る問題では県平均を6ポイント程度上回っている。 ●「世界各地の人々の生活と環境」では、正答率が市の平均を6ポイント程度下回っている。世界の気候に関する学習事項が十分に定着していないところがみられる。 ●「世界の諸地域（アフリカ）」では、正答率が市の平均を5ポイント程度下回っている。 ●条件にあてはまる国や地名を地図から選択する問題で市の平均を大きく下回っている。	全体的に地理的分野では市の平均、県平均を下回る項目が多いため、地名や気候など基礎的な内容の定着を確実に図る指導をおこなっていく。具体的には、授業で学習した内容を復習するための課題を提示したり、授業の冒頭で前時の復習として、5問程度の小テストを実施していく。 また、自分の考えを述べる活用の問題でのつまずきがみられるため、授業の中で自分なりの考えをまとめたり、発表したりする機会を十分に取っていく。
歴史的分野	○「歴史」の平均正答率は県平均を1．4ポイント程度上回っている。 ○年代の表し方を答える問題では市の平均を8ポイント程度、県平均を9ポイント程度上回っている。 ○中世の貿易に関する問題では、市の平均を16ポイント、県平均を20ポイント上回っている。 ○中世の農村における歴史的事象について正しく判断する活用の問題で、市の平均を5ポイント程度、県平均を7ポイント程度上回っている。 ●中世に作られた法の名前を答える問題で市の平均を11ポイント程度下回っている。 ●中世に活躍した人物を年代順に並び変える問題で市の平均を6ポイント程度下回っている。	項目によって定着の程度に差がみられることから、様々な歴史的事象を関連付けることが苦手であると考えられるため、各時代を学習する導入において、その時代に関する自分なりのイメージを膨らませてから学習に入り、一つの時代を学習し終えたまとめの時間において、その時代に関する自分なりの時代観を生徒がもてるようにしていきたい。 また、自分で説明する問題でのつまずきがみられるため、授業の中で自分なりの考えをまとめたり、発表したりする機会を十分にとっていく。

宇都宮市立若松原中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	54.4	59.8	57.0
	図形	54.9	57.1	56.1
	関数	63.1	61.8	59.8
	資料の活用	35.8	41.6	41.4
観点	数学的な見方や考え方	43.1	44.9	43.9
	数学的な技能	55.3	59.4	56.8
	数量や図形などについての知識・理解	51.2	53.0	52.3



★指導の工夫と改善

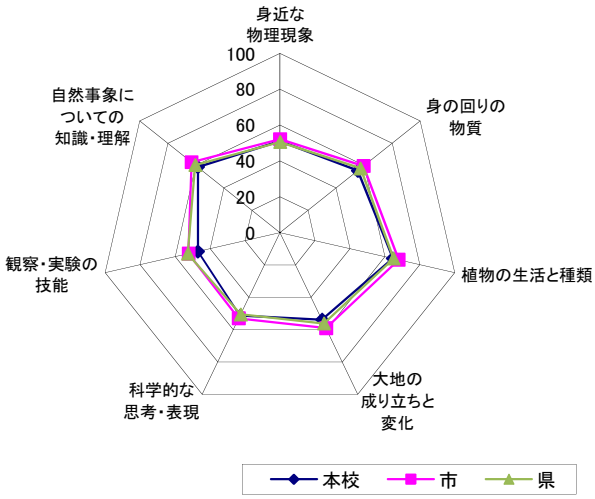
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数の計算については、おおむね県の平均と同じような正答率である。問題文から立式することについては市、県よりも正答率が高い。 ●今年度は昨年度と比べ、正答率が1．4ポイント下回っており、市の平均を大きく下回っている。特に一次式の計算や一次方程式を解くことの正答率が低い。また、無解答率も多く、計算方法など定着していないところがある。	・一次式の項をまとめたり、移項して方程式を解くことについての定着がされていない部分があるので、授業内で計算の反復練習を行う。生徒の実態を把握し、それぞれの生徒への支援を行う。
図形	○今年度は昨年度と比べ、正答率が4．3ポイント上回っている。計算以外の部分(面や、立体を選ぶ設問)に関しては、市、県よりも正答率が高い。 ●市や県よりも正答率が低い。特に作図や、立体の表面積、体積を求める計算問題の正答率が低くなっている。	・立体について表面積や体積の求め方、作図の方法が定着していない生徒が多く見られるので、全体で復習する機会を設け定着を図る。定着状況に差が見られるので、個別での支援もしていく必要がある。
関数	○今年度は昨年度と比べ、正答率が5．2ポイント上回っている。市や県よりも正答率が高い唯一の領域である。比例や反比例の式、グラフについての理解度が高い。 ●yをxの式で表すこと、グラフから読み取る設問について定着状況に大きく差が見られる。	・比例のグラフをかくことやグラフの読み取りは、2年時の一次関数の単元でも必要となるものである。授業内で、既習内容の復習をし理解できるよう支援する。記述式の設問について無解答率が増加する傾向にあるので、自分の言葉で書かせる練習を設ける必要がある。
資料の活用	○度数分布表の見方はほとんどの生徒が理解できている。 ●今年度は昨年度と比べ、正答率が2．8ポイント下回っており、市や県のよりも正答率が低くなっている。階級値や相対度数などの用語が定着していない生徒が多く見られる。	・資料の活用の単元では、いくつかの重要な用語がでてくるので、その意味を理解させるとともに問題演習を繰り返し行うことで定着を図る必要がある。全体で復習する機会を設け定着を図り、個別での支援をしていく。

宇都宮市立若松原中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	51.1	52.1	50.5
	身の回りの物質	55.4	59.6	57.4
	植物の生活と種類	64.5	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	53.9	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	51.4	53.1	50.6
	観察・実験の技能	47.0	52.4	52.7
	自然事象についての知識・理解	58.6	63.1	60.5



★指導の工夫と改善

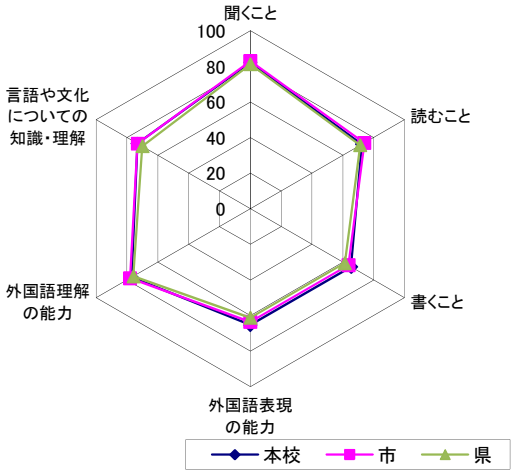
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○「物体にはたらく重力の表し方」や「実験の結果と登山による気圧の変化を関係づける」問題に対しては県の平均よりも5ポイント以上上回っている。 ●「音の波形による振幅や音の大きさ、高さを説明する」問題に対しては県の平均よりも5ポイント以上下回っている。振幅という用語の理解や波形の見方を定着させることが今後の課題である。	実験を行いながら、用語の意味などを生徒同士が確認していく場面を多くする。具体的には、実験の操作方法をお互いに確認させていく中で履修内容の用語を使って説明しあうようにする。 いろいろな音の出るものの波形を見せることで、波形の見方を生徒自身に気づかせながら行う授業を展開できるようにする。
身の回りの物質	○「水溶液中の粒子のモデルを推測する」や「水の量を半分にしたときの温度変化のようすを推測する」問題に対しては県の平均よりも3ポイント以上上回っている。 ●「密度の大きさから物質の浮き沈みがわかる」や「ガスバーナーを正しく操作する手順がわかる」問題に対しては県の平均よりも5ポイント以上下回っている。密度が表す意味やガスバーナーの火を消すときの方法を定着させることが今後の課題である。	ガスバーナーの使い方をパフォーマンステストを通して生徒自身が評価できるようにする。具体的には、生徒同士がお互いのパフォーマンスを評価し、改善点等を話し合える場を設定できるようにする。 密度の測定および計算を繰り返し行うことで、密度の表す意味を知る機会を増やせるようにする。
植物の生活と種類	○「実験結果から光合成によってできる物質がわかる」や「対照実験の結果から光合成について考察する」問題に対しては県の平均よりも5ポイント以上上回っている。 ●「顕微鏡を正しく操作する手順がわかる」問題に対しては県の平均よりも5ポイント以上下回っている。顕微鏡の使い方を正しく身につけることが今後の課題である。	顕微鏡の使い方をパフォーマンステストを通して生徒自身が評価できるようにする。具体的には、生徒同士がお互いのパフォーマンスを評価し、改善点等を話し合える場を設定できるようにする。
大地の成り立ちと変化	○「表をもとに火山灰の色と火山の形を関係づける」問題に対しては県の平均よりも5ポイント以上上回っている。 ●「白色や無色の鉱物の種類がわかる」や「地層の様子から海の深さの変化について推測することができる」問題に対しては県の平均よりも5ポイント以上下回っている。	有色鉱物と無色鉱物の違いを知らせ、正しい知識を伝えていくとともに、地層の堆積状況から何がわかるのかを知る場面を多く設定するようにする。

宇都宮市立若松原中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	82.2	82.9	81.2
	読むこと	72.3	73.9	71.2
	書くこと	65.3	63.6	61.2
観点	外国語表現の能力	65.3	63.6	61.2
	外国語理解の能力	77.0	78.1	75.9
	言語や文化についての知識・理解	73.3	73.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○対話文を聞いて、適切な絵を選ぶ問題、また自己紹介文の聞き取りは正答率が高い。 ●疑問詞Whoseで始まる疑問文、Let's do it in my house. に対する、応答に適した文章を選ぶ問題は苦手である。同じ疑問詞でも、What, Where, Whenを使った疑問文に対する答えの正答率は高い。所有格についての運用力が不足しているかと思われる。また、疑問文ではない相手の言葉に対して、応答する知識が未定着のようである。	教師と生徒、生徒同士のインタラクションの機会を増やし、質問に対する応答の練習量を増やしていきたい。この活動をとおして、質問の仕方とそれに対する答え方に注意をむけさせたい。
読むこと	○長文読解はおおむねできている。 しかし、市の平均よりやや低い唯一の項目である。 ●対話文で疑問文に対する答えを、会話の流れから読み取る正答率は低い。また、長文の内容を理解し内容に一致した文章を選ぶ問題では、一部の生徒が苦手としている。	場面に応じた対話文を生徒自身が考え、書く。さらにその会話文を演じてみる。この活動を通して、質問の仕方やそれへの回答、さらに話を続ける方法に気づき、会話の流れができることを学べる機会を増やしたい。長文読解では、要約する活動を通して重要な情報をとらえることをしていきたい。
書くこと	○全体的に市の平均を上回る。 特に並べ替え問題は得意としている。 ●疑問詞がついた疑問文の作りについての知識が定着不足のようである。さらに、自分自身のことについて書く問題で、質問に対して1文目はできるが、内容につながりのある複数の文章を書くことは苦手である。	質問されたことについて理解を深め、書くべき内容を考え、まとめる力を養う必要がある。文例を示しながら、テーマに沿った短い文を書くことから始め、さらに自分の意見をまとめて書く活動を継続的に行い、文章のつなげ方を学べる機会を増やしたい。

宇都宮市立若松原中学校 第２学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

【学習に関して】

○学習についての質問の中で肯定的割合が宇都宮市や栃木県に比べて数字が高くなっているのが「学習に対して自分から進んでやっている」、「家で、自分で計画を立てて勉強している」、「家で、学校の授業の予習をしている」、「家で、学校の復習をよくしている」などの質問である。これらの結果から学習に対する意識をしっかりと持ち、家庭学習の習慣が身に付いているため、今後自分なりの学習を身に付け、基礎基本を定着させることによってさらに力を付けていくと思われる。一方、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」という質問の肯定的回答が市や県よりも低くなっており、テストの見直しや復習をするといった学習の仕方を身に付けさせる必要が課題と考えられる。

○「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」という質問で肯定割合が宇都宮市や栃木県に比べて大きく上回っている。このことから一生懸命授業に取り組んでいることが分かる。反面「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問に対する肯定割合が低い。授業の中で振り返るための時間をとり、学んだ内容の再確認と次時へ意欲をつなげるためにも振り返り活動を習慣付ける必要がある。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、漢字を使って調べている」、「本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている」、「不思議に思うことは、分かるまで調べたい」などの質問で肯定的割合が宇都宮市や栃木県に比べて大きく下回っているのだが、「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」と考えている生徒が多いことから、課題を解決していくための学習法を指導していくことで確かな学力を付けさせていくことが必要である。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と感じている割合が多く、「友達の前で自分の考えをや意見を発表することは得意である」という質問の肯定割合が宇都宮市や栃木県と比べて大きく下回っている。クラスで発言しやすい雰囲気を作るとともに、授業の中で話合い活動を数多く取り入れながら自分の考えを発表する機会を増やしていくことで発表力を付けることが大切である

【生活に関して】

○生活についての質問の中で肯定的割合が宇都宮市や栃木県に比べて数字が高くなっているのが「食事のとき、好き嫌いをしないで食べている」であり、「毎日食事を食べている」の質問でもわずかながら市や県を上回っている。好き嫌いをせずに、規則正しく食生活を行うことは健やかな身体を作ることからも給食での指導だけでなく、家庭の協力を得ながらさらに充実させていく。

○「将来の夢や目標をもっている」に対する肯定割合が宇都宮市や栃木県を大きく上回っている。これからも学習する意義だけでなく、目標を持って自分の夢の実現に向けて頑張っていくよう進路学習をさらに充実させていく。

○「自分にはよいところがある」、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という質問に対して肯定割合が宇都宮市市や栃木県に比べて高い。しかし「自分はクラスの人のために役立っている」と感じている生徒は市や県より低くなっており、自分の行動や発言に自信をもたせ、積極的に活動に取り組む姿勢を育てていくことが大切である。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」、「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」、「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の質問に対し肯定割合が宇都宮市や栃木県よりかなり低い。社会のできごとや事象に対し興味関心をもつことは、視野を広め、知的好奇心を伸ばしていくことにつながるため、社会科や総合的な学習の時間を中心として各教科で指導していく。

●ゲームをする時間については宇都宮市や栃木県とほぼ同じくらいであるが、「見てはいけないサイトにつながらないようになってますか」に対して市より肯定割合が１．４％低くなっている。スマートフォンやインターネットなどはそれらの機器のリスクや危険性を十分に指導し、犯罪に巻き込まれないよう正しい知識を身に付けられるよう指導していく。